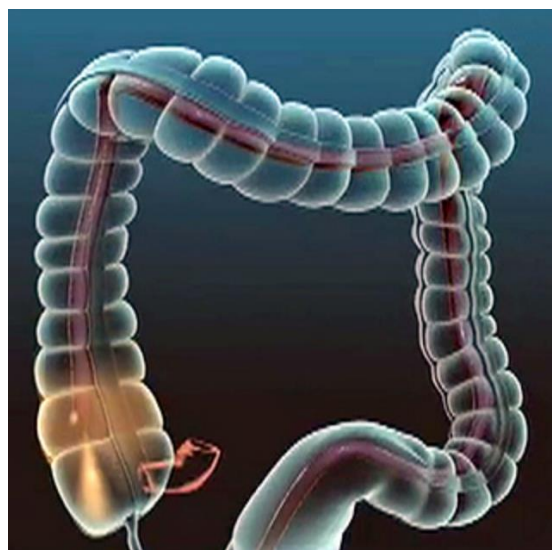


大腸ポリープ切除後大腸内視鏡検査の意義

イギリス Imperial College London の Atkin らは、中間リスク腺腫（2個までの ≥ 10 mm 腺腫または3~4個の微小腺腫）と診断された患者で、3年間隔の大腸内視鏡検査を行い、大腸がん罹患率への効果を検討した結果を「The Lancet Oncology」誌に発表しました（n=11,944）。



追跡中央値 7.9 年で 210 件の大腸がんが診断されました。非受診患者と比して、大腸内視鏡受診患者では大腸がん罹患率が有意に低下しました（1 度の大腸内視鏡：調整ハザード比 0.57、2 度：0.51）。

